「グローバル地域マインド育成」プログラム開発の試み
－「３Ｃ（Cooperation, Creativity, Communication）」マインド育成の観点から－

The Report on Developing the Program to Cultivate “Global-Local-minded” Students
- From a Perspective of Nurturing “3C (Cooperation, Creativity, Communication) Minds” -

林　炫情・森原　彩・吉田　琴美
LIM Hyunjung　MORIHARA Aya　YOSHIDA Kotomi

This is the report of an oversea program, “Kyungnam & YPU market” which was conducted in Changwon city in Korea from September 19th to September 27th, 2014. The program was carreid out with Kyungnam University and Changwon city.

１．はじめに

「グローバル地域マインド」とは、国境や文化を越え、世界的な視野で地域の問題解決に取り組む前向きな姿勢と意識を指す。加速度的なグローバリゼーションに伴い、地域の課題を地域レベルにとどめることなく、グローバルな問題としてとらえ、共に取り組むことがますます必要不可欠になっている。同じような問題を抱えた「地域」が手をとりあって、解決策を探るプロセスの中、見方を変えると「課題」が「チャンス」になる可能性は大いにある。本取り組みでは、とりわけ、自らが生活している地域の諸課題の解決のために世界の地域と協働（cooperation）して取り組むことができる。そしてその課題を新しいチャンスに変え、地域の新しい価値を生み出す創造力（creativity）を持ち、地域社会を動かし発信できるコミュニケーション力（communication）を有する「グローバル地域マインド」を持った学生の育成を目指す。本稿では、その一環として2014年９月19日から９月27日（土）に韓国の昌原市にあるオドンドン・チャンドン市場と慶南大学校にて実施した、海外フィールドワーク[1]「慶南＆YPU（Yamaguchi Prefectural University）ジャント[2]」活動の実践報告を行う。

２．「グローバル地域マインド育成」プログラムの概要

今回のフィールドワーク企画に至った背景は、2014年１月に山口県立大学で開催された、韓国・慶南大学校・教授鄭恩姫氏による「３Ｅ（Experience・Economic・Education）小道旅行」に関するセミナーがきっかけであった。「３Ｅ小道旅行」は名称にもあるとおり、教育的、経済的、体験的な要素を持っているプロジェクトで、昌原（チャンウォン）地域の再生と商圏活性化を目的とし、在来市場（産）と商圏活性化財団（官）、そして大学（学）が協働で実施しているものである。地域社会の再生と成長に向けた昌原（チャンウォン）市の取り組みは、事業運営に関わる財政的、環境的、人的、物理的支援などに関するパートナーシップが構築され、それぞれの有機的な協力関係に基づいて運営している点において、まさに「産・学・官」が連携・協力し、有機的・総合的に地域の課題に取り組むモデルの一つといえる（図１）。

1　山口県立大学では平成24年度から文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」の採択を受け、年間で語学研修を含め10～13の海外ショートプログラムを実施している。本プログラムはその海外フィールドワーク１つとして実施したものである。
2　韓国語で「ジャント」は伝統的に市場が開かれる場所を意味する。伝統を守りながらも時代に合わせた地域活性化に取り組む本プロジェクトには最適な名前だと判断し、プロジェクト名とした。

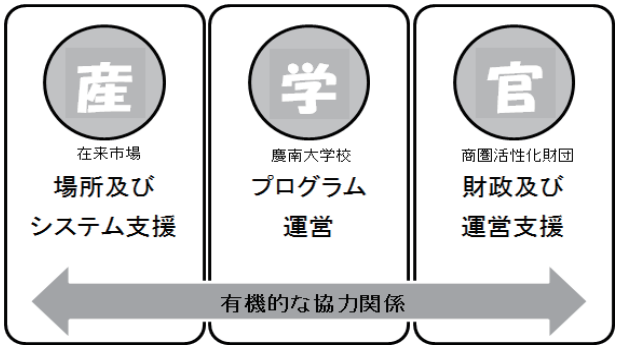

図１.「３E小道旅行」における産学官の有機的な協力関係

一方でこのような連携の取り組みを持続可能なものにするためには、地域市民の姿勢やマインドの持ち方が大切であろう。持続可能な地域活性化に向けては、まず自らが生活している地域の諸課題を世界の地域と協働しながら解決するマインド（cooperation）、そして課題を新しいチャンスに変え、地域の新しい価値を生み出す創造していこうとするマインド（creativity）、さらに地域社会を動かし発信していこうとする積極的なコミュニケーションマインド（communication）が必要であると考える（以下、３Cマインドと呼ぶ）。そこで本取組みでは、今後地域社会を支えていく大学生のための「グローバル地域マインド育成」プログラムを開発し、大学生の地域社会に対する関心・興味を高めるとともに、世界的な視野で地域の諸問題を考えてもらうための実践的な場を提供する。具体的には、海外フィールドワーク「慶南＆YPU ジャント」において、昌原市に拠点をおく慶南大学校の大学生とともに、日韓大学生共同セミナーを開催し「幸せな地域社会づくり」のためには何が必要かグループディスカッションを行う。また、地域活性化のために必要なものを体験的に学ぶため、慶南大学校とチャンドン商店街で実施、運営している「３E小道旅行」に参加し、地域活性化プログラムを直接体験する。そして以上の体験学習が学生の「３Cマインド」形成にどのように影響しているのか、プログラム終了後の振り返りをもとに評価する。

２.１　山口市と昌原市の現状

韓国慶尚南道の東南部に位置する昌原市は、2010 年に昌原市・馬山市・鎮海市が合併しており、人口約 100 万人の都市である。山口市とは姉妹都市提携を結んでおり、地域の過小化と空洞化という山口市と同様の地域課題を抱えているなどで類似している。例えば現在、山口市は人口減少が続いており、若者が山口市から出ていき、伝統文化を受け継ぐ人がいなくなっているといった問題があるが（図１）、一方の昌原市も同様に人口減少の問題を抱えている。次に、商店街の通行量と商品販売額が減っている点も類似している。また、山口市中央商店街の場合、通行量と商品販売額ともに大幅減少しているがこのような商店街に纏わる問題を抱えているのは昌原市も同様である（図２）。しかし、チャンドン市場[3]では、現在「３E小道旅行」という地域活性化プログラムを作り、以前の活気を再びもたらそうとする取り組みを行っているところである。

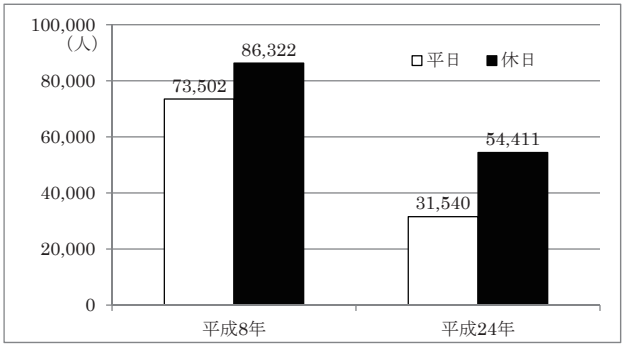

図２．山口市中央商店街の通行量の変化
山口市（2014）『第２期山口市中心市街地活性化基本計画』をもとに作成

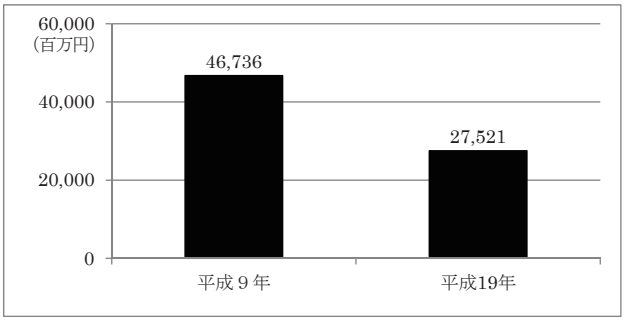

図３．山口市中央商店街の商品販売額の変化
山口市（2014）『第２期山口市中心市街地活性化基本計画』をもとに作成

「３E小道旅行」の正式事業名は、「オドンドン・チャンドン・魚市場へと出かける３E小道旅行プログラム運営」である。主催機関は「（財）オドンドン・チャンドン・魚市場商圏活性化財団」、運営機関は「慶南大学校・産学合力団・生涯学習研究セン

3　チャンドン市場は昌原市馬山区にあり、周辺にはプリム市場・スナムサン市場・オドンドン・魚市場・ジャンウ市場といった６つの伝統市場が終結している。店舗数はこの市場一帯で 2900 店舗ある。

ター」が行っている。３Ｅというのは「Education」「Economic」「Experience」の略で、教育・経済・体験活動という意味を持っている。具体的な内容は表１の通りである。

３．「慶南＆YPUジャント」の実践と成果

海外フィールドワーク「慶南＆YPUジャント」は、2014年９月19日(金)から９月27日(土)までの期間に韓国・昌原市にて実施した。日本側の参加者は、教員２名と学生８名であった。フィールドワークの日程及び主な活動内容は表２に示す。以下では、「日韓大学生共同セミナー」「フリーマーケット運営」「日本文化体験ブース運営」に分け、その活動内容について具体的に報告する。

表１．「３Ｅ小道旅行」の運営内容

Education (教育活動)	・経済教育特講「市場物語」　…伝統市場の役割及び必要性を理解して馬山の6つの市場の歴史と特徴を認識させる ・市場ゴールデンベル　……組別ゴールデンベル進行を通じて講義内容を興味深く長期的に記憶し、共同心を向上させる
Economic (経済活動)	・フリーマーケット運営　…自分たちの物を直接持ってきて物品を販売する取引活動を経験してみる。市場経済の流れ理解、一日CEO体験を行う ・収益金寄付　……収益金を地域社会に寄付
Experience (体験活動)	・解説のある小道旅行　…芸術村小道、魚市場小道、歴史文化小道 ・市場ランニングマン　…主な商店街を走りながらミッションを遂行してくるゲーム ・甘いパパラッチ　……チャンドン地域を背景に写真を撮る ・芸術家と共にする芸術作品作り

表２．「慶南＆ＹＰＵジャント」の日程

日程	活動内容
9月19日（金）	・韓国入り
20日（土）	・「海を越え、ひとまたぎ、おいでませ山口へ」フリーマーケット運営
21日（日）	・山口ブース準備日
22日（月）	・「地域の再生と成長のための幸せな地域社会作り」に関する日韓大学生共同セミナー開催 ・慶南大学校主催の歓迎会参加
23日（火）	・「海を越え、ひとまたぎ、おいでませ山口へ」日本文化体験ブース運営（大学生対象）
24日（水）	・「海を越え、ひとまたぎ、おいでませ山口へ」日本文化体験ブース運営（小学生対象）
25日（木）	・「海を越え、ひとまたぎ、おいでませ山口へ」日本文化体験ブース運営（高校生対象） ・昌原市地域活性課主催の昼食会参加 ・大学院セミナー参加
26日（金）	・自由フィールドワーク
27日（土）	・帰国

３．１　日韓大学生共同セミナー

慶南大学校にて日韓大学生共同セミナーを９月22日（月）に実施した。セミナーには本学と慶南大学の学生約30名、そしてワークショップ進行を手伝うチュートリアルチューター役の大学院生４名、そして教職員５名が参加した。セミナーの前半は両大学の学生の発表があり、本学の学生は山口県立大学の紹介と今回のフィールドワークの概要について、慶南大学校の学生からは地域社会問題とその問題に関する分析、自らが取り組むプログラムについての発表があった。セミナーの後半は、４つのグループに分かれてグループワークを行った。トピックは二つあり、「私が考える幸せな地域社会」と「幸せな地域社会のために私たちができること」である。手順は四段階で、「1. ポストイットにテーマ別で各自の考えを１～２枚ずつ書く」、「2. グループリーダーはメンバーの意見を聞きながらポストイットを分類する」、「3. 二番目のトピックを各グループ３つに整理する」、「4. テーマ別にグループの全体意見を整理し発表する」の順であった。そして、トピックの二番目「幸せな地域社会のために私たちができること」に関しては、各グループであがった13の項目を採択し、全員で一つずつ読み上げながらそれぞれ責任をもって今後取り組むことを宣言した。

３．２　「海を越えてひとまたぎ　おいでませ山口」フリーマーケット実施

９月20日（土）に、チャンドン市場で実施する「小

写真１．本学の学生による発表

写真２．慶南大学校の学生による発表

写真３．グループワーク

写真４．グループワーク結果発表

写真５．セミナー終了後の集合ポーズ

表３．「幸せな地域社会のために私たちができること」に関する宣言内容

1. 私たちは、環境のためにエコバック・タンブラーを使う。
1. 私たちは、地域愛を持ち、祭り・政策・選挙に積極的に参加する。
1. 私たちは、地域社会と共にする思いで関係を保つ。
1. 私たちは、ゴミのない街を作る。
1. 私たちは、心を開くため、地域住民たちに先にあいさつをする。
1. 私たちは、目で見て耳で聞く、人々の情熱を叩き起こす街を作る。
1. 私たちは、自転車利用を日常化する。
1. 私たちは、地域の活動に積極的に参加する。
1. 私たちは、住民意識を持ち、法を守る。
1. 私たちは、地域愛大学生支援奉仕団を作り、地域環境に対し責任を持つ。
1. 私たちは、地域愛大学生広報団を作り、地域広報に力を入れる。
1. 私たちは、公共交通利用時、妊娠をした人や体が不自由な人に席を譲る。
1. 私たちは、意味のある日に伝統衣装を着る。

道旅行そしてフリーマーケット」に参加した。このフリーマーケットは、訪問者にいくつかの芸術体験を提供する場を設け、都市再生の持続性の確保を目的に、一カ月に一回、チャンドン・オドンドン・プリム市場商店街が主催するイベントである。今では市民や商店街の人々からも多くの関心を集めている。本取組みではそこで「海を越えてひとまたぎ　おいでませ山口」コーナーを開き、山口県を紹介するなどの「山口発信」を行った。主な活動内容としては、①小野茶の試飲、②豆子郎（外郎）の試食、③大内塗の塗り絵、④日本の伝統遊びの４つである。今回取り上げた４つのアイテムは、全て山口を代表する名産品であり、韓国人に知ってもらいたいと学生自ら選定したものである。当日は、おおよそ180名の人が訪れた。

今回の海外フィールドワーク実施にあたり、事前準備として小野茶・豆子郎・徳地和紙・大内塗の４つのグループに分かれ、現地調査に出かけたり、韓国人に山口のアイテムを分かりやすく紹介するための韓国語プレゼンの練習を幾度も行ってきた。現地調査を通して学生自身が多くの地元の人々と触れ合い、それに関わっている地元の人々の思いや生の声を拾いあげるといった一連の活動は、学生にとって地域を再認識する大変貴重な体験となったといえる。また、これまで学んできた韓国語で山口を紹介する冊子を作成したり（図４と図５）、現地で韓国人に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーション練習は、学生たち自身が現在の自分の言語力を振り返

写真６．小野茶試食

写真７．豆子郎（外郎）の試食

写真８．大内塗人形の塗り絵体験の様子

写真９．伝統遊び体験の様子

写真 10．陶芸の職人による芸術体験

写真 11．フリーマーケット終了後

図４．冊子の表紙と裏表紙（冊子はすべて日本語と韓国語の２言語で発行）

図５．冊子のページの一部（大内塗についての紹介ページ）

り、更なるコミュニケーション力アップを図る良い機会となった。こういった事前学習を通した緻密な現地視察と準備が、現地での学生達の積極的な声かけや行動として現れ、学生達の成長を大いに実感することができた。

３．３　日本文化体験ブース運営

９月23日（火）から三日間、チャンドン市場の空き店舗を借り「日本文化体験ブース」を開いた。対象者、日程、参加人数の内訳は表４の通りである。

今回、日本文化体験ブースで紹介したのは、①紙芝居、②徳地和紙のしおり作り、③大内塗人形の塗り絵、④小野茶と豆子郎の紹介と試食、⑤日本の伝統遊び（けん玉や紙風船）、⑥浴衣試着体験であった。

参加者に日本語に触れる機会を提供するための工夫として紙芝居を読むときは、日本語のセリフの一部を韓国人参加者と一緒に朗読したり、しおり作りや塗り絵コーナーでひらがなを書いたりした。体験の最後は、ブースに参加した58名に対して運営に関するアンケートを行った。その結果、「山口に対する興味や関心はどうなったか」については、95％の参加者が「興味や関心が高まった」「もっと調べたくなった」と回答した。「また日本文化体験をしてみたいか」については、99％が「また日本文化体験をしてみたい」と回答した。この結果からも分かるように、今回企画・運営した日本文化体験ブースは、参加者に対して日本や山口について興味と関心をもってもらう良いきっかけ作りとなったと自負できる。

表４．日本文化体験ブース運営日程および参加者内訳

No.	対象	日程	参加人数	備考
1	大学生	23日（火）	25人	
2	中学生	24日（水）午前	―	天候悪化のため中止
3	小学生	24日（水）午後	90人	
4	高校生	25日（木）午前	40人	
5	大学院	25日（木）午後	8人	出張ブース（慶南大学校）

４．プログラム終了後の振り返り

本プログラムに参加した学生の事後アンケートや報告書においての気づきや感想から、本プログラムの実施目的であった「グローバル地域マインド」としての、「３Ｃマインド」育成の成果を各カテゴリー別に示すと下記の通りである。

Coorperation（協働）

・私たちが一生懸命やっていれば相手もそれを評価して、発展するのだ、ということを実感した。（Ｋ・Ｏ）

・今回のフィールドワークを通して、多くの人々の協力があって私たちが活動できたのだと感じた。（Ｙ・Ｍ）

・国は違っても少子高齢化問題や商店街の顧客数減少など、問題は似ていることが印象的だった。お互いの地域問題を共有し、それぞれ意見の異なる解決策を話し合うことができたため、非常に意義のある時間だった。（Ｋ・Ｙ）

・いくら伝えたいと思っても韓国語で伝えようとす

写真 12.　紙芝居朗読

写真 13.　徳地和紙でしおり作り

写真 14.　大内塗人形の塗り絵体験

写真 15.　浴衣試着体験

写真 16.　けん玉体験

写真 17.　小野茶の紹介

るとうまく言い表すことができなかったり、言葉の壁にぶち当たることもあったが、先生や先輩、友達の助けを借り、伝えることができた。（R・H）

Creativity（創造）

・紹介するアイテムについてインターネットで情報を集めたり、現地取材をしたりし、パンフレット作成に力を注いだ。作成時には、限られたスペースにどの情報を載せればいいのか、どうすれば興味を持ってもらえるのか分からずに苦労した。（T・S）

・大学では地域の関わりかたや山口の文化や歴史、世界へ日本を伝える方法などを学んでいるが、このフィールドワークを通して大学の講義内容を情報・知識としてだけでなく経験として理解することができた。（S・O）

・貴重な体験をし、次ぐにつなげないともったいないと感じる。もっと地域に関心を持つ人が増えることによって地域愛を広げることに貢献したい。（W・Y）

Communication（コミュニケーション）

・グローバル人材をめざし、海外にばかり目を向けがちではなるが、相手やその国について知るためには、まず自分の住む町について知らなければならないし、そうすることで深い交流ができるのだと思った。（Ａ・Ｙ）
・言葉がうまく伝わらないからこそ自ら動く大切さに気付かされた。（Ｒ・Ｈ）
・アイテム紹介をする際に食品の味や食感を的確に表現することに困難が生じた。しかし、先生方や先輩のアドバイスのおかげで満足できるパンフレットを完成させることができた。（Ｔ・Ｓ）

５．終わりに

本稿では、グローバル地域マインド育成という観点から海外フィールドワーク「慶南＆ YPU ジャント」の活動が学生の３Ｃマインド形成をどのように促したか、検討した。上記の学生の事後報告書のコメントや感想からも分かるように、本プログラムは慶南大学校の鄭恩姫教授をはじめとする大学院生の方、商圏活性化財団のスタッフの皆さんとの協力、共同セミナーにおいての慶南大学生との「Coorperation」、事前準備におけるパンフレット作成や紹介方法の工夫、またフリーマーケットや「日本文化体験ブース」の魅力的なコーナーづくりにおける「Creativity」、そして、活動を通して現地の人々や大学生との交流や仲間どおしでの「Communication」である「３Ｃ」を、協調的問題解決のなかで学生に学ばせることができたと自負している。ただ、「グローバル地域マインド」育成は一朝一夕で身につくものではなく、今回の学習成果も将来必要な時にきちんと使え、発展的に持続できてこそ意味がある。今後はこれらを踏まえ「グローバル地域マインド」ラーニング・プログレッションズとして、さらなる活動の充実と学生の成長を促すよう工夫していきたい。

最後に、本プログラムは、韓国・慶南大学校・鄭恩姫教授と昌原市オドンドン・チャンドン魚市場商圏活性化財団の尹銅柱タウンマネージャーの全面的なご協力を得て実施することができた。両氏に対して心より感謝申し上げる。

参考文献

鄭恩姫 (2013)「オドンドン・チャンドン・魚市場へと出かける３Ｅ小道旅行プログラム運営」結果報告書
経済産業省（編）(2009)『社会人基礎力　育成の手引き―日本の将来を託す若者を育てるために―』河合塾
山口市ＨＰ『第２期山口市中心市街地活性化基本計画』
https://www.city.yamaguchi.lg.jp/cms-sypher/open_imgs/service/0000031102.pdf#search='%E5%B1%B1%E5%8F%A3%E5%B8%82+%E5%95%86%E5%BA%97%E8%A1%97+%E8%AA%B2%E9%A1%8C
(2014 年 12 月 13 日　最終閲覧)